

に血管病変は動・静脈硬化症へと移行する。

文 献

- 1) 秦順一, 清水興一: 急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群 (MCLS) における動脈炎の病理学的検討, 最新医学, **32**: 964-971, 昭和52年。
- 2) 浜島義博: 川崎病, 日病会誌, **66**: 59~92, 昭和52年。
- 3) 直江史郎, 増田毅弘, 高桑俊文, 田中昇: 川崎病の冠動脈病変, とくに冠状動脈瘤の形態発生に関する検索。昭和52年度小児慢性疾患 (臓器系) に関する研究, 研究報告書, 38-40。
- 4) 大根田玄寿, 新開紘子, 吉田洋二: 川崎病の病理学的研究。冠状動脈病変の成り立ちについて。昭和52年度小児慢性疾患 (臓器系) に関する研究。研究報告書, 37~38。

小児血管炎に関する病理学的検討

聖マリアンナ医大第二病理 直 江 史 郎
 昭和大・医・第一病理 増 田 弘 毅
 千葉県がんセンター研究所 田 中 昇

<はじめに>

川崎病にみられる動脈炎については冠状動脈を中心として、様々な方向から検索されている。しかし、他の小児血管炎との比較検討は研究対照となる剖検例が非常に少ないこともあって、殆んどなされていない。今回は川崎病以外の小児血管炎例に重点をおいて観察した。

<材料と方法>

全国諸機関の御好意により収集し得た川崎病剖検例と15例の小児血管炎または血管病変をもった例である。

各例は主に H・E 染色を施し, Elastica van Gieson 染色, Masson-Trichrome 染色, PTAH 染色を適用した。

<結 果>

- 1) 小児 classical PN: 全身各所の中・小動脈全層にみられる類線維素性血管炎が主で、太陽のコロナ状を呈す。このような新鮮な病変から線維化する陳旧性病変にいたる各時期の血管変化をみる。このような小児期の classical PN 例も冠状動脈を形成することが多く、肉眼的には川崎病のそれと鑑別し得ない。
- 2) 大動脈炎症候群: 大動脈の栄養血管の内腔閉塞を来し、また大動脈外膜の著しい肥厚をみる。病変の分布は大動脈および頸部・腋窩動脈が主である。
- 3) 系統的巨細胞性動脈炎: 比較的小きな血管はその病変が内膜から内弾性板を破り中膜に向かって拡っていくようで、巨細胞も認める。一方大動脈は全周性に均一に著

しく肥厚し弾力性に富んでおり、外膜から中膜にかけ虫喰い状に大動脈を侵し、かつ内膜の線維性肥厚も目立つ。病変の分布はかなり広汎であり、小動脈にまでみられる。本例は大動脈炎症候群の初期病変という考え方も成り立つ。

4) アレルギー性血管炎 (Schönlein-Henoch 症候群): 全身の細小動脈に著明な好中球浸潤を伴う、かつ比較的水分に富む類線維素性壊死と多量の細胞破砕像をみる。

5) 幼児動脈石灰沈着症: 動脈壁に著明な石灰沈着を来すが、この変化をみた血管は内腔に向かって狭窄して行く性格をもつ。この特徴はこれまでの血管炎例とは基本的に異なるものといえよう。

6) その他, Unclassified angitis 2例, Drug induced angitis(?) 1例, Rheumatic fever with angitis 1例, 新生児冠状動脈中膜壊死 1例, Menkes' Kinky Hair 病 2例についても検討した。

以上の症例を検索し、血管変化の分布について表わしたのが図1であり、黒点が病変を示す。とくに、冠動脈を中心とした変化について模式化して示したものが図2である。

<結 論>

川崎病の血管変化をより確実に把握する目的で、川崎病以外の小児血管炎例ならびに血管病変を検索した結果を報告した。

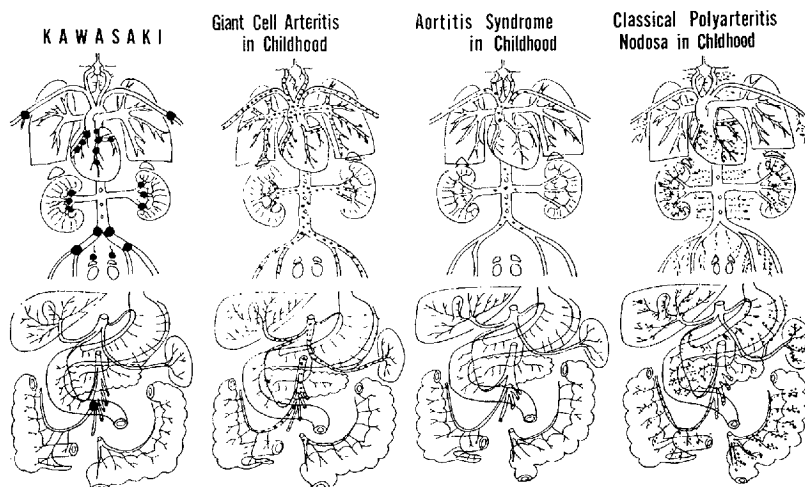


図 1 Distribution of Angitis

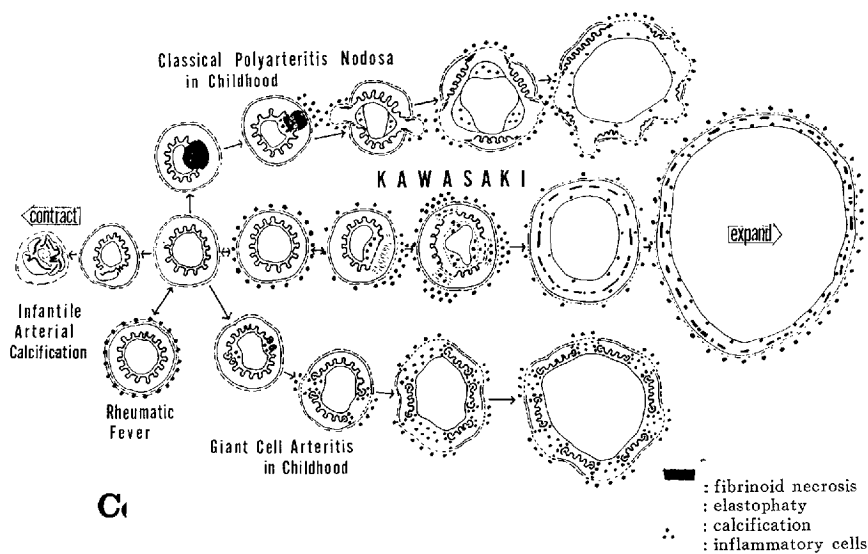


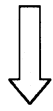
図 2 Comparative Study of KAWASAKI Disease

<参考文献>

- 1) 藤巻茂史：免疫病理Ⅱ，最新医学20，1088~1149，1965。
- 2) 発地雅夫：血管炎の病理形態学的概念—血管炎の臨床概念批判—，日本臨床，36，8~13，1978。
- 3) Landing, B. H. et al.: Are infantile periarteritis nodosa with coronary artery involvement and fatal mucocutaneous lymph node syndrome the

same? Comparison of 20 patients from North America with patients from Hawaii and Japan, Pediatrics, 59: 651-661, 1977.

- 4) Tanaka, N. et al.: Kawasaki disease; Relationship with infantile periarteritis nodosa. Arch. Pathol. Lab. Med. 100, 81-86, 1976.
- 5) 直江史郎：小児血管炎における病理学的研究—とくに川崎病を中心として—，日本病理学会秋季特別総会A演説発表，1978（東京）。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



<はじめに>

川崎病にみられる動脈炎については冠状動脈を中心として、様々な方向から検索されている。しかし、他の小児血管炎との比較検討は研究対照となる剖検例が非常に少ないこともあって、殆んどなされていない。今回は川崎病以外の小児血管炎例に重点をおいて観察した。